

別 表
-----

別表 1

(1) 冊子版「航空と文化」No.113、114号目次

113号 (夏季号)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の人力飛行機の初飛行50周年記念座談会 人力飛行機リネットを語る 日本大学リネット製作チーム</li> <li>・名機を生んだ設計者の「閃き」 元YS-11設計部員、元日本航空機開発協会常務理事、 日本航空宇宙学会名誉会員 鳥養鶴雄</li> <li>・空の冒険者・民間パイロット国内最初の犠牲者 武石浩玻の軌跡 茨城大学名誉教授 佐々木靖章</li> <li>・2016 青少年航空宇宙絵画国際コンテスト (2016 FAI ヤングアーティストコンテス ト国内予選) 日本航空協会</li> <li>・一般財団法人日本航空協会 平成27年度事業報告および平成28年度事業計画 日本航空協会</li> </ul>	
114号 (新春号)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年のご挨拶 日本航空協会会長 野村吉三郎</li> <li>・MRJの開発と飛行試験～ Flying into the future ～ 三菱航空機株式会社技術本部副本部長 佐倉 潔</li> <li>・超小型衛星が切り拓く宇宙開発のフロンティア 東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻准教授 船瀬 龍</li> <li>・飛燕の修復について 日本航空協会航空遺産継承基金事務局</li> <li>・平成28年度「空の日」航空関係者表彰式 日本航空協会</li> <li>・一式双発高等練習機を重要航空遺産として認定 日本航空協会航空遺産継承基金事務局</li> </ul>	

(敬称略)

(2) WEB版「航空と文化」平成28年度の掲載内容

掲載日	タイトル	執筆者
2016. 4.22	空のパイオニア・飯沼金太郎と亜細亜航空学校	小暮達夫
2017. 3.15	世界初の宇宙帆船「IKAROS」が切り拓く太陽系大航海時代	森 治

(敬称略)

2016年航空スポーツ団体別活動状況

2016年12月31日現在

	日本気球連盟 (NKR)	エクスペリメンタル航空機連盟 (EXAL)	(公社)日本航空機操縦士協会 (JAPA)	(公社)日本滑空協会 (JSA)	日本模型航空連盟 (JMA)	(公社)日本ハンド・パラグライダー連盟 (JHF)	(NP0)日本マイクロライト航空連盟 (JML)	日本パラモーター協会 (JPMA)	★パラシューティイング
実施種目	熱気球	自作航空機 ・固定翼機 ・ヘリコプター ・ジャイロプレーン ・人力航空機	飛行機 ヘリコプター	滑空機 (グライダー) 動力滑空機 (モーターグライダー)	模型航空機 ・ゴム動力機 ・エンジン機 ・電動機 ・グライダー ・ヘリコプター他 ・模型ロケット	・ハンドグライダー ・パラグライダー (補助動力付を含む)	マイクロライト (超軽量動力機) ・舵面操縦型 ・体重移動操縦型 ・パラシュート型	・パラモーター (RPF1, RPF2) ・パワーワード グライダー (RWF1, RWF2)	パラシューティイング ・アキシュラシー ・フォーメーション スカイダイビング ・フリースタイル ・フリーフライディング
会員数	1,495人 NKR個人、家族、法人会員として登録された人数	約100人 EXALへの加盟クラブ数からの推定人数	約550人 JAPA会員(約8300名)のうち自家用操縦士技能証明所有者の推定人数	515人 JSA会員のうち個人会員の合計人数	7,765人 JMAの正会員及び準会員の合計人数	7,853人 JHF会員数の内訳 ハンドグライダー 785人 パラグライダー 7,068人	577人 JML会員登録者数	983人 JPMA会員登録者数	-
愛好者全体数	約7,000人 全国の気球クラブ数や大会等の参加者数からの推定人数	約400人 個人所有が主なので機体数から推定人数 鳥人間コンテスト出場者数を含む	約2,700人 第2種航空身体検査受検者からの推定人数(飛行機・回航翼・滑空機)	約3,000人 全国の現在活動している団体、クラブ所属者からの推定人数 ※2015年度のデータ	約75,000人 機体の売上からの推定人数	約30,000人 過去からの更新・新規登録による推定人数	約1,500人 国土交通省への登録機数からの推定	約4,000人～5,000人 過去からの登録機数より推定人数	-
機体数	393機 上記は有効機体登録数、気球連盟への累計機体登録数は1543機	約200機 国土交通省への登録機数 固定翼機及びヘリコプター 140機 ジャイロプレーン 163機 (2016年12月現在)	約590機 飛行機 約380機 ヘリコプター 約210機	約282機 国土交通省への登録機数は652機	不明 機体個別の登録制度なし	不明 安全性委員会への型式登録数(累計) ・ハンドグライダー 372機 ・パラグライダー 1,005機	約1,500機 国土交通省への登録機数 ・舵面操縦型 1,195機 ・体重移動操縦型 330機	不明	-
備考(トピックス)	熱気球日本選手権(6月佐賀)34名エントリー FAI熱気球世界選手権(10～11月佐賀)【FAI CAT1】31カ国105機(日本代表7名)エントリー、31カ国	【EXALの2016年活動】LSAの規格の機体が2機、航空局より試験飛行が許可された。今後もJAAと協力して発展させたい。 【JAPAの2016年活動】EXALが人力航空機の統括認定団体になった。日本新記録機へ3チームが名乗り出たが、挑戦飛行2017年は鳥人間コンテストが40回目を迎えるため、協賛団体JHFと安全運航に努める。	【ジェットパイプ】Red Bull Air Race(6月千葉)室屋選手優勝(シルズ、最終順位6/15位) 【エアバディック】滑空機曲技世界選手権(7月バングラ)1名参加、飛行機曲技世界選手権(8月ポーランド)1名審判員任用、CIVA年次総会(11月ベルギー)に1名参加。 【ボカワア】活動停滞。	全国の飛行回数ほぼ横ばい、飛行時間は9031Hから14099Hに増加。 全国の愛好者数はほぼ変わらず、毎年200人程度の出入がある。	外国製の低価格完成機の急増により、日本製キットは消滅の危機。おもてなし等の取扱いが急速に廃業。事業用ドローンと航空機の取扱いがローコスト機の危険性を危惧。 国際情勢の悪化により国際的な活動も低迷。改正航空法の影響により競技者以外の会員登録者が急増し、事故の増加や保険料率の見直し等が問題に。今後、競技者の返りを図ることが課題。	第5回JHFワールドグライダーMPのイベント向けの安全セミナーを開催。 【ボカワア】日本選手権(3月栃木)、JAS V日本選手権(11月栃木)、JAS V世界選手権(7月マドニ)	2016年のボカワアは「無事故・安全」と「無計可防止」。 正会員数は、高齢化により苦戦したが、新規会員と復活会員の勧誘努力により退会者数をカバーして横ばいを守り、安全講習会を空の日旬間補助事業と合わせて各7回開催。 若手リーダーの石川雅浩氏がFAIエアバディックを受賞。日本選手権(6月栃木)を開催。	前年度に続き、死亡事故3件、着水事故2件の重大事故が発生。 日本選手権(10月千葉)を100名規模で開催。同時に開催のJLV&FUNでは30名近いエントリー(女性2名含む)有り。 世界選手権(8月ドイツ)に五十嵐選手が参加。九州の若手強豪選手を抜き8位に入賞。国別でも11カ国中9位であった。	

日本航空協会認定団体の活動状況 (★：現在認定統括団体なし)  
会員数は、平成13年から国際航空連盟 (FAI)へ報告する実活動者に合わせて有効会員数とした。

## 別表 3

## 1) 日本で開催したFAI国際競技会 (FAI Category I)

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加国/数	日本人成績
1. 熱気球 第22回FAI熱気球世界選手権 (FAI Category I)	Rhett HEARTSILL (USA)	2016. 10. 28 ～11. 06	佐賀県 佐賀市	31カ国 105機/チーム	8, 11, 13, 24 , 36, 57, 79,

## 2) 公認した日本選手権

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加数
1. 熱気球 平成28年度(第33回) 熱気球日本選手権	片平 史郎	2016. 6. 03 ～05	佐賀県佐賀市	34機
2. 模型航空機 F1A フリーフライト・グライダー F1B フリーフライト・ゴム動力機 F1C フリーフライト・エンジン機	山本 修 菅原 隆郎 中田 光恭	2016. 11. 05 ～06	千葉県旭市	7名 23名 6名
F1D フリーフライト・室内機	木原 一正	2016. 10. 22 ～23	長野県松本市 やまびこドーム	16名
F2B コントロールライン・曲技	能米 昭一郎	2016. 10. 14 ～16	福井県南条市 リトリートたくら	16名
F3A ラジオコントロール・曲技	音田 哲男	2016. 08. 24 ～28	富山県黒部市 新川ラジオクラブ飛行場	40名
F3B ラジオコントロール・ グライダー	櫻井 尚人	2016. 10. 21 ～23	埼玉県児玉郡上里町 上里模型グライダー場	40名
F3C ラジオコントロール・ ヘリコプター	伊藤 寛規	2016. 10. 06 ～09	栃木県宇都宮市 宇都宮RCクラブ岡本飛行場	41名
F3D ラジオコントロール・ パイロンレーシング	櫻井 良和	2016. 10. 27 ～29	三重県伊賀市 K F C 飛行場	15名
F3J ラジオコントロール・ 手曳航グライダー	長野 佳祐	2016. 05. 14 ～15	埼玉県児玉郡上里町 模型グライダー場	30名
F3K ラジオコントロール・ ハンドランチグライダー	木島 明良	2016. 11. 11 ～13	埼玉県児玉郡上里町 模型グライダー場	26名
F3P ラジオコントロール・ 室内曲技	音田 哲男	2016. 11. 13	山梨県甲斐市 日本航空学園体育館	13名
F5B ラジオコントロール・ 電動グライダー	小島 洋	2016. 10. 30	千葉県野田市 野田市スポーツ公園	13名
F5D ラジオコントロール・ 電動パイロンレーシング	大槻 篤志	2016. 11. 19	三重県伊賀市 K F C 飛行場	12名

3. ハング・パラグライディング 2017 ハンググライディング 日本選手権 in 紀の川スカイグランプリ (FAI Category II)	総合 不成立 女子 不成立	2017. 02. 09 ～12	和歌山県紀の川市 紀の川フライト パーク	55名
2016 パラグライディングアキュ ラシー日本選手権 in 九十九里 (FAI Category II)	総合 塚原隆信 女子 不成立	2016. 10. 15 ～16	千葉県山武市 本須賀海水浴場	15名
2016 ハンググライディング・ クラスV日本選手権 in 茨城 (FAI Category II)	板垣 直樹	2016. 11. 03 ～06	茨城県石岡市 足尾エリア	35名
2017ハンググライディング日本 選手権 in 紀の川スカイグラン プリ (FAI Category II)	総合 不成立 女子 不成立	2017. 2. 9 ～12	和歌山県紀の川市 紀の川フライトパーク	55名
2016パラグライディング 日本選手権 in 吉野川 (FAI Category II)	総合 岩崎拓夫 女子 平木啓子	2016. 11. 03 ～04	徳島県三好郡 水の丸エリア他	73名
East Japan Championship 2016	総合 岡田伸弘 女子 野尻知里	2016. 9. 22 ～25	茨城県石岡市	56名
4. マイクロライト	舵面操縦型 西川正秀	2016. 06. 03 ～05	AMC藤岡場外離着陸場	舵面操縦型 11名
	体重移動操縦型 坂田勇治			体重移動操 縦型 8名
	パラモーター 田村 高章	2016. 10. 28 ～30	千葉県香取郡神崎町 利根川河川敷	15名

3) 後援した競技会等

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加数
1. 熱気球 2016熱気球ホンダ・グランプリ	総合1位 Team Scaife (パイロット Matthew SCAIFE)			
第1戦 渡良瀬バルーンレース2016	(藤田 雄大)	2016.04.08 ～10	栃木県栃木市藤岡町 渡良瀬遊水地周辺	34機
第2戦 佐久バルーン フェスティバル2016	(松本 直之)	2016.05.03 ～05	長野県佐久市 千曲川スポーツ交流広場	39機
第3戦 鈴鹿バルーン フェスティバル2016	(水上 孝雄)	2016.09.17 ～19	三重県鈴鹿市 鈴鹿川河川緑地 鈴鹿サーキット	36機
第4戦 一関・平泉バルーン フェスティバル2016	Matthew SCAIFE(AUS)	2016.10.14 ～16	岩手県一関市 一関水辺のプラザ	32機
第5戦 佐賀熱気球世界選手権	Rhett HEARTSILL(USA)	2016.10.28 ～11.06	佐賀県佐賀市 嘉瀬川河川敷	105機
第43回 北海道バルーン フェスティバル	チーム カイラス (PLT 宮田 浩樹)	2016.08.05 ～07	北海道河東郡上士幌町 上士幌町航空公園	競技機 34機
第41回 おぢや風船一揆	B.C.有頂天 (PLT 松永 望)	2017.02.25 ～26	新潟県小千谷市西中	45機
2. 滑空機(グライダー) 第57回 全日本学生グライダー 競技選手権大会	個人 田中 紘平 (法政大学) 団体 法政大学 (法政デイスカスチームデ)	2017.03.14 ～19	埼玉県熊谷市 妻沼滑空場	8校 8チーム 35名
第56回 全国七大学総合体育大会 航空の部	個人 後藤 泰輝 (名古屋大学) 団体 名古屋大学	2017.02.28 ～03.07	千葉県関宿町 NPO関宿滑空場	7校 26名
第19回 東京六大学対抗 グライダー競技会	個人 山崎 大輔 (慶應義塾大学) 団体 慶應義塾大学	2016.09.03 ～09.10	埼玉県熊谷市 妻沼滑空場	6校 43名

4) 選手を派遣した世界選手権、アジア選手権 等

種 目 (名 称)	選手権者名	開 催 日	場 所	参加国	日本人 成績
1. 熱気球 第22回FAI熱気球世界選手権 (FAI Category I)	Rhett HEARTSILL(USA)	2016. 10. 28 ～11. 06	佐賀県 佐賀市	31カ国 105機/ チーム	8, 11, 13, 24, 36, 57, 79,
第3回熱気球ジュニア世界 選手権	Rokas KOSTIUKVICIUS (LTU)	2016. 06. 28 ～07. 03	Marijampole リトアニア	17カ国 36名	16, 17, 31
第2回熱気球女性世界選手権	Nicola SCAIFE(AUS)	2016. 07. 05 ～10	Birstonas リトアニア	19カ国 41名	17, 31, 34
2. エアロバティック 7 <sup>th</sup> FAI World Advanced Glider Aerobatic Championships	個人 Sebastian Jansson (SWA)	2016. 07. 20 ～30	Matkopuszta ハンガリー	15カ国 39名	21
3. 滑空機 (グライダー) 第34回滑空世界選手権	20mクラス (複座) Laurent Aboulim, Julien Duboc (FRA)	2016. 07. 30 ～08. 15	Pociunai リトアニア	22カ国 22チーム	18
	15mクラス Sebastian Kawa(POL)	2017. 01. 08 ～22	Benalla オーストラリア	22カ国 37チーム	2
4. 模型航空機 F1D フリーフライト 室内機	個人 Yuan Kang Lee (USA) 団体 ハンガリー	2016. 04. 11 ～16	Slanic ルーマニア	15カ国 37名	27, 30, 32 団体8
	F2B コントロールライン 曲技 個人 Hernandez Orestes (USA) 団体 アメリカ	2016. 05. 07 ～13	Perth オーストラリア	21カ国 51名	13, 17, 18 団体3
	F3J ラジオコントロール 手曳きグライダー 個人 Hucaljuk Arijan (CRO) 団体 ドイツ	2016. 07. 31 ～08. 06	Vipava スロベニア	25カ国 69名	61, 66, 68 団体21
F5B ラジオコントロール 電動グライダー	個人 Starzinger Johannes (AUT) 団体 オーストラリア	2016. 08. 12 ～20	Lugo di Romagna イタリア	14カ国 42名	28, 34, 39 団体10
	F5D ラジオコントロール 電動パイロンレーシング 個人 Andrlík Tomas (CZE) 団体 チェコ共和国			9カ国 24名	4, 21, 22 団体6
(アジアオセアニア選手権) F3A ラジオコントロール 曲技	個人 音田 哲男 (日本) ジュニア 峯村 翔太郎 団体 日本	2016. 10. 01 ～08	Taichung City 台湾	8カ国 27名	1, 2, 3, 4 団体1
5. ハング・ パラグライディング 第7回 FAIハング	個人 Tim Grabowski (GER) 団体 オーストリア				6, 13, 15, 28,

グライダー (クラス5) 世界選手権		2016. 07. 16 ～30	Krushevo マケドニア	25カ国 121名	団体3
第19回 FAIハング グライダー (クラス1) ヨーロッパ選手権	個人 Christian Ciech (ITA) 団体 イタリア				77
第3回 FAIパラグライ ディング・アキュラシー アジア選手権	個人 伊藤 まり子 (日本) 団体 中国	2016. 05. 27 ～06. 03	Taldykorgan カザフスタン	7カ国 50名	1. 8. 11. 14. 15. 18 団体4
6・パラモーター 第9回パラモーター世界選 手権	個人 Alexandre MATEOS (FRA) 団体 フランス	2016. 8. 20 ～27	Popham イギリス	11カ国 46名	8 団体9

別表 4

1) 記録の公認

1. FAI国際記録 (FAIより認定された記録)

種 目	氏 名	記 録	飛行年月日・飛行場所・認定日
滑空機 (オセアニア記録) 15m級 女性 100km三角コース速度	市川 朱美	145.53 km/h	2015. 10. 24 オーストラリア ナロメイン飛行場 2016. 07. 25
模型航空機 (世界記録) F1M室内模型 滞空時間 (天井高さ15M以上30M未満)	檀上 彰宏	22分41秒	2016. 09. 23 日本国 滋賀県長浜市長浜ドーム 2016. 12. 20
模型航空機 (世界記録) F1N室内模型 滞空時間 (天井高さ8M以上15M未満)	石井 満	1分0.5秒	2016. 07. 05 日本国 東京都富士森体育館 2016. 12. 20
ハングライダー (世界記録) 目的地直線距離 女性	磯本 容子	367.6km	2016. 01. 07 オーストリア (フォーブス～ウォルゲット) 2016. 07. 13
パラグライダー (世界記録) 目的地直線距離 女性	平木 啓子	301km	2015. 11. 02 ブラジル (キシヤダ～アルト・ロンガ) 2016. 07. 25
パラシューティング (アジア記録) Largest Freefall Formation Sequential Record 一般	池田 武彦 小野寺 ひとみ 川島 妙子 小林 信敏 小林 伸彦 志村 詠子 志村 直茂 眞貝 源太 高嶋 孝行 中野 郷 広野 和彦 前原 大介 増田 大輔 村上 学 目崎 奈々 山本 航介 依田 育子 Douglas Clay Siow Tian Rui	18名で構成する Formationで 7ポイント	2016. 02. 22 アメリカ合衆国 カリフォルニア州 Perris 2016. 10. 10



2. 日本記録（当協会が認定した記録）

種 目	氏 名	記 録	飛行年月日・飛行場所・認定日
模型航空機 F 1 M室内模型 滞空時間 (天井高さ15M以上30M未満)	檀上 彰宏	22分41秒	2016. 09. 23 日本国 滋賀県長浜市長浜ドーム 2016. 10. 28
模型航空機 F 1 N室内模型 滞空時間 (天井高さ8M以上15M未満)	石井 満	1分0.5秒	2016. 07. 05 日本国 東京都富士森体育館 2016. 10. 03
模型航空機 F 5 Dラジオコントロール パイロンレース	大槻 篤志	56.98秒	2016. 08. 17 イタリア (ルーゴ) 2016. 11. 02

\* 国際記録は平成28年度にFAIより認定された記録、日本記録は平成28年度に認定した記録を記載。

2) FAIスポーツ・ライセンス（2016年1月1日～12月31日）

種 目	FAIスポーツ・ライセンス発行			有効登録者数 (12月31日現在)
	新規発行	更 新	合 計	
熱 気 球	7	10	17	75
人 力 飛 行 機	2	1	3	3
滑 空 機	0	2	2	73
模 型 航 空 機	22	17	39	131
パラシュート	1	16	17	25
ハンググライダー (含パラグライダー)	18	21	39	244
超 軽 量 動 力 機	0	0	0	5
飛 行 機	0	0	0	6
その他 (Rotor craft)	0	0	0	0
合 計	50	67	117	562

3) 資格証の発行数 (2016年1月1日～12月31日)

1. 滑空機

種 目	種 目	件 数
1. F A I 国際滑空記章  ※ ( ) 内は、内数 平成22年4月1日より、認定証書のみ発行し、バッジは申請者の選択性とした。	銀 章 (※認定証のみ)	9 (0)
	金 章 (※認定証のみ)	1 (0)
	ダイヤモンド距離章	0
	ダイヤモンド高度章	0
	ダイヤモンド目的地章	1
	3ダイヤモンド章	0
	750km章 (※認定証のみ)	1 (1)
	1,000km以上章	0
2. 飛行成績証明書  ※記章発行 (単一科目達成時及び複数科目の最終項目達成時) を除く。	滞 空 5時間 (5H)	29
	距 離 50km (5K)	9
	高 度 1,000m (1M)	20
	距 離 300km (3K)	1
	高 度 3,000m (3M)	2
	目的地 300km (3D)	1
	高 度 5,000m (5M)	0
	距 離 500km (5D)	0
	距 離 750km (7D)	1
	距 離 1,000km (10D)	0
距 離 1,500km (15D)	0	

2. 模型航空機

種 目	種 目	件 数
1. 技能証 R/C ヘリコプター	A級	8
	B級	11
	C級	5
	D級	0
	E級	0
C/L 飛行機	A級	2
	B級	2
	C級	2
	D級	1

### 3. パラシューティング

種 目	種 目	件 数
1. 落下傘降下士技能証	A技能証	0
	B技能証	0
	C技能証（銀）	0
	D技能証（金）	0
2. 国際パラシューティング技能証	A技能証	0
	B技能証	0
	C技能証	0
	D技能証	0

別表 5

#### 1) 主催事業

名 称	開 催 日	場 所	参加人数
航空スポーツ教室 スカイ・キッズ・プログラム (第35～37回)	2016. 07. 18	製鉄公園 /愛知県東海市	80名
	2016. 08. 06 ～07	東京臨海広域防災公園 /東京都江東区	1,487名
	2017. 03. 12	日南総合運動公園 /宮崎県日南市	18名
こども模型飛行機教室 (全国23箇所、参加者数1,080名) *参加者数は子供のみ	2016. 04. 08	高知ラジコンクラブ飛行場 /高知県高知市	15名 (笹泰典)
	2016. 05. 19	渋谷区立富ヶ谷小学校 /東京都渋谷区	20名 (吉岡靖夫)
	2016. 06. 19	千葉県立現代産業科学館 /千葉县市川市	27名 (石原能行)
	2016. 07. 01	箱根町湯本小学校 /神奈川県足柄郡	40名 (指導員のみ)
	2016. 07. 09	目黒区立鷹番小学校 /東京都目黒区	36名 (渡久地政光)
	2016. 07. 18	製鉄公園 /愛知県東海市	40名 (和田光信)
	2016. 08. 06	東京臨海広域防災公園 /東京都江東区	155名 (指導員のみ)
	2016. 08. 06	神田公民館 /滋賀県長浜市	24名 (鷲見健次)

	2016. 08. 25	桜木公民館 ／埼玉県大宮市	24名 (辻ただす)
	2016. 09. 10	荒川区立赤土小学校 ／東京都荒川区	92名 (指導員のみ)
	2016. 09. 18	航空科学博物館 ／千葉県山武郡	31名 (塙隆之)
	2016. 09. 24 ～25	東京ビッグサイト西3ホール ／東京都江東区	60名 (指導員のみ)
	2016. 10. 22	ホンダエアポート ／埼玉県比企郡	54名 (山科達雄)
	2016. 10. 23	妻沼滑空場 ／埼玉県熊谷市	62名 (指導員のみ)
	2016. 10. 25	鞍手町立室木小学校 ／福岡県鞍手郡	40名 (安藤由隆)
	2016. 10. 29	ホンダエアポート ／埼玉県比企郡	29名 (山科達雄)
	2016. 11. 12	延岡市民体育館 ／宮崎県延岡市	50名 (島崎一)
	2016. 11. 13	八幡浜市スポーツセンター ／愛媛県八幡浜市	20名 (辻ただす)
	2016. 11. 26	霞ヶ浦総合運動公園 ／茨城県土浦市	115名 (指導員のみ)
	2016. 12. 10	初台青年館 ／東京都渋谷区	30名 (吉岡靖夫)
	2017. 01. 14	千葉県立現代産業科学館 ／千葉縣市川市	30名 (石原能行)
	2017. 01. 23	高知市立はりまや橋小学校 ／高知県高知市	68名 (吉岡久智)
	2017. 03. 12	日南市総合運動公園 ／宮崎県日南市	18名 (渡久地政光)

2) 共催事業：主催実行委員会構成団体の一員として参画

名 称	開 催 日	場 所	備 考
東日本大震災支援熱気球イベント 第17回「空を見上げて」IN東京	2016. 08. 06 ～07	東京都江東区 東京臨海広域防災公園	1,487名
第22回 スカイスports シンポジウム (一社)日本航空宇宙学会主催	2016. 12. 10	都立産業技術高等専門学校 荒川キャンパス	94名 (事務局含)

3) 後援事業

名 称	開 催 日	場 所	備 考
第41回 二宮忠八翁 飛行記念大会	2016. 04. 29	愛媛県八幡浜市 市民スポーツパーク グラウンド	来場者数 1,300人
第39回 鳥人間コンテスト 選手権大会2016	2016. 07. 30 ～31	滋賀県彦根市 松原水泳場周辺	来場者数 25,000人
2016 北海道スカイスポーツ フェア イン 余市	2016. 08. 07	北海道余市町 農道離着陸場「アップルポート 余市」	入場者数 2,700人
第29回札幌航空ページェント	2016. 07. 24	北海道札幌市 丘珠飛行場	入場者数 40,000人
第43回北海道バルーン フェスティバル	2016. 08. 05～07	北海道河東郡上士幌町	観客数 17,000人
埼玉スカイ・スポーツ・フェスタ2016	2016. 10. 23	埼玉県熊谷市 妻沼滑空場	来場者数 12,000人
第30回RC航空ページェント	2016. 11. 03	栃木県太田市 尾島RCスカイポート	来場者数 32,000人
第41回おぢや風船一揆	2017. 2. 25～26	新潟県小千谷市西中会	来場者数 23,000人
バルーンフェスタ in 駒沢	2016. 08. 19 ～21	東京都世田谷区 駒沢オリンピック後援	来場者数 1,500人

4) 協力事業

名 称	開 催 日	場 所	備 考
空まつり2016	2016. 11. 20	千葉県野田市 野田市スポーツ公園	来場者数 500人
第6回宇宙旅行シンポジウム	2017. 1. 28	航空会館7階大ホール (東京都港区新橋1-18-1)	来場者数 180人

## 別表 6

## I. 平成28年度 日本航空協会賞 受賞者一覧

## 1. 航空亀齢賞

＜長年にわたり航空の発展に尽力され、且つ数え年90歳になられた方に長寿を祝福する賞＞

あおき ひでお <b>青木 英雄 氏</b> (89歳)	航空会社の整備部門および安全部門の責任者として、新技術・装置の導入による安全運航の向上と安全風土の醸成に尽力されました。 〔元全日本空輸(株)代表取締役副社長 推薦：全日本空輸(株)〕
おおしま あずさ <b>大島 梓 氏</b> (90歳)	ジェネラルアビエーション委員や調布空港安全飛行研究会代表として航空の安全に長年にわたり尽力されるとともに、国際親善フライト等、航空における国際交流の発展に大きく貢献されました。 〔プライベート・フライング・クラブ主宰 推薦：(公社)日本航空機操縦士協会〕
おおた しゅうへい <b>太田 修平 氏</b> (90歳)	健全な民間航空の発展に尽力されるとともに、経験を活かした指導力により、多くの航空関連会社の発展にも寄与されました。日本航空協会の副会長として長年尽力され、業界全体の発展に貢献されました。 〔元全日本空輸(株)専務取締役 推薦：全日本空輸(株)〕
くもい ときゆき <b>雲居 時行 氏</b> (90歳)	航空スポーツ各分野の普及・啓発に尽力され、特にグライダーにおいては、滑空専門情報の発信や日本選手権の運営等の活動を通して、技術や安全性の向上に大きく貢献されました。 〔元(公社)日本滑空協会理事 推薦：(公社)日本滑空協会〕
さくらい はるよし <b>櫻井 晴好 氏</b> (90歳)	長年にわたり学生グライダーへの指導および滑空の技術研究を通じた若手設計技術者の育成に尽力され、我が国グライダースポーツの普及、安全啓発に多大な貢献をされました。 〔元(公社)日本滑空協会理事 推薦：(公社)日本滑空協会〕
たかはし ひさお <b>高橋 久生 氏</b> (91歳)	長年にわたり、航空機製造を主とした航空工学について教鞭をとられ、技術者教育に大きく貢献されました。教育の一環として自作飛行機製作の導入、指導に着手され、更には飛行を披露する等、自作飛行機の製作および飛行に尽力されました。 〔東京都立航空工業高等専門学校 名誉教授 推薦：エキスパート航空機連盟〕
ほんだ やすまさ <b>本多 靖正 氏</b> (89歳)	航空機製造・修理事業ならびに生産技術において長年尽力され、国際共同開発においては中央翼部分の製造獲得に寄与されるなど、我が国の航空機工業界の信頼向上に貢献されました。 〔元(株)エースヘリコプター代表取締役社長 推薦：(一社)日本航空宇宙工業会〕
よしわか もとゐ <b>義若 基 氏</b> (89歳)	設計研究、技術導入、運航、普及、国際交流、後人の育成、用途開発、ドクターヘリの普及など、あらゆる分野において大きく寄与され、我が国ヘリコプターの発展に多大な貢献をされました。 〔日本ヘリコプター協会名誉顧問・元川崎重工業(株)岐阜工場長 推薦：(一社)日本航空宇宙工業会〕

## 2. 航空功績賞

＜航空に関する文化、科学技術および事業等の発展に著しく寄与された方またはグループに贈る賞＞

いとう もとつぐ <b>伊藤 源嗣 氏</b> (80歳)	航空エンジン開発リーダーとしてV2500エンジン国際共同開発の実現など我が国の航空エンジン産業の発展に大きく寄与されるとともに、長年にわたり、研究者や学生の育成に尽力され、技術の発展・啓発に多大な貢献をされました。〔元石川島播磨重工業(現(株)IHI)代表取締役会長 推薦：(一社)日本航空宇宙工業会〕
-------------------------------------	---

<p>せきぐち ちはる <b>関口 千春氏</b> (72歳)</p>	<p>日本人初のフライトサージャン(*)として、長年にわたり日本人宇宙飛行士の医学選抜、健康管理に多大な貢献をされました。また、人材の育成を行うとともに、一般、特に若年層に向けた航空医学に関する講演等を積極的に行うことにより、宇宙航空医学の啓発に大きく寄与されました。 〔日本宇宙航空環境医学会理事 推薦：日本宇宙航空環境医学会〕</p>
<p>とだ のぶお <b>戸田 信雄氏</b> (70歳)</p>	<p>三菱重工業において、航空宇宙部門最高責任者として三菱リージョナルジェット機(MRJ)の開発を指揮し、その後の三菱航空機設立にあたっては初代社長として航空機開発体制の構築に尽力されるなど、国産旅客機開発事業に多大な貢献をされました。 〔元 三菱航空機(株)取締役会長 推薦：(一社)日本航空宇宙工業会〕</p>
<p>とりかい つるお <b>鳥養 鶴雄氏</b> (85歳)</p>	<p>長年にわたり、国産航空機の開発に携わるとともに、ボーイング777国際共同開発においては日本技術チームの取り纏めを行うなど、旅客機開発およびその技術維持継承に大きく貢献されました。 また、航空機に関する深い造詣をもとに出版された数多くの著書や講演活動等を通して、航空文化の継承にも大きく寄与されました。 〔元(財)日本航空機開発協会常務理事 推薦：航空ジャーナリスト協会〕</p>

### 3. 空の夢賞

<航空、宇宙に対する夢や希望を与え、または明るい話題を提供するなどユニークな貢献をした者またはグループに贈る賞>

<p>むろや よしひで <b>室屋 義秀氏</b></p>	<p>FAI公認「レッドブル・エアレース・ワールドチャンピオンシップ」において初のアジア人パイロットとして2009年から参戦し、本年5月には同レース初となる日本人パイロットによる優勝を成し遂げられました。全国各地での講演活動やメディアを通じた情報発信は、人々の航空スポーツへの関心を高めるとともに、その振興に大きく寄与されました。また、地元福島の支援活動や子どもプロジェクトにも積極的に参画し、未来を担う子どもたちに夢や希望を与えることに大きく貢献されました。 〔推薦：(一財)日本航空協会〕</p>
-----------------------------------	--

4. 航空文化賞 <航空に関する功績が顕著で、航空界が挙がって表敬を惜しまない者に贈る賞>  
該当者なし

5. 航空特別賞 <航空の発展、思想の普及啓蒙に顕著な功績があった者またはグループに贈る賞>  
該当者なし

### 6. 航空スポーツ賞

<航空スポーツのFAI世界記録を樹立、または、同世界選手権者となった個人、グループに贈る賞>

<p>だんじょうあきひろ <b>檀上 彰宏氏</b></p>	<p>模型航空機による滞空時間世界記録を樹立(平成27年7月24日) フリーフライト室内機F1D級(125-a 天井高8m未満) 20分35秒</p>
<p>ひらき けいこ <b>平木 啓子氏</b></p>	<p>パラグライダーによる距離世界記録を樹立(平成27年11月2日) パラグライダー 女性クラス 目的地直線距離 301km</p>

いそもと ようこ <b>磯本 容子 氏</b>	ハンググライダーによる距離世界記録を樹立（平成28年1月7日） ハンググライダー 女性クラス 目的地直線距離 367.6 km
----------------------------	--

## Ⅱ. 国際航空連盟（FAI）賞伝達

### 1. FAI グループ・ディプロマ・オブ・オナー (Group Diploma of Honour)

<前年又は前年までの活動により、航空や宇宙飛行の発展に多大に貢献した団体（設計事務所、科学技術団体、出版機関など）に授与する賞>

佐賀大学 <b>熱気球部</b>	国内で開催された熱気球世界選手権をはじめ、長きにわたり熱気球大会への協力ならびに多くの後進を育成するなど 航空スポーツの発展に貢献されました。 〔推薦：日本気球連盟〕
---------------------	--

### 2. FAI エア・スポーツ・メダル (The FAI Air Sports Medal)

<航空スポーツに関連した委員会業務、競技会運営、若年層の教育訓練等に顕著な功績や貢献があった個人又は団体に贈る賞>

ひろた かずひろ <b>広田 和弘 氏</b>	熱気球インストラクターとして後進の指導育成を行う一方、長年にわたり日本気球連盟にて、パイロットやイグザミナーの制度改革や安全委員長として、事故防止の普及啓蒙活動に努めるなど航空スポーツの普及振興に貢献されました。 〔推薦：日本気球連盟〕
かみしま さかえ <b>上島 栄 氏</b>	公益社団法人日本航空機操縦士協会にて、「飛行訓練装置」の教官として多くの操縦士訓練生の育成を行う一方、若年層に空の魅力を伝える企画を実施し、航空文化の普及啓蒙活動に努めるなど航空スポーツの普及振興に貢献されました。 〔推薦：(公社) 日本航空機操縦士協会〕
さいとう たけし <b>齋藤 岳志 氏</b>	国内外の競技会への参加や国内飛行で初の国際滑空記章750km章とFAIアジア大陸記録を樹立する一方、グライダーを用いた地域振興の航空スポーツイベントの開催やグライダー教官として後進の指導育成に努めるなど航空スポーツの普及振興に貢献されました。 〔推薦：(公社) 日本滑空協会〕
いしかわ まさひろ <b>石川 雅浩 氏</b>	NPO法人日本マイクロライト航空連盟などの要職や大会役員を務める一方、地域振興の航空スポーツイベントや若年層を対象とした航空教室の開催、また、マイクロライト教官として後進の指導育成に努めるなど航空スポーツの普及振興に貢献されました。 〔推薦：(NPO) 日本マイクロライト航空連盟〕